

処理概要

EDIシステムからファイル送信される受注データをPaaS環境に取込む

- ①受注データの取込
- 受注データ取込処理により、EDI情報テーブルに取込む  
上記処理にてエラーとなる場合、伝票単位で取込まない。  
但し、商品コードエラーの場合は、ダミー品目にて取込む
  - EDI受注取込処理により、アドオン受注テーブルに取込む

システム利用者

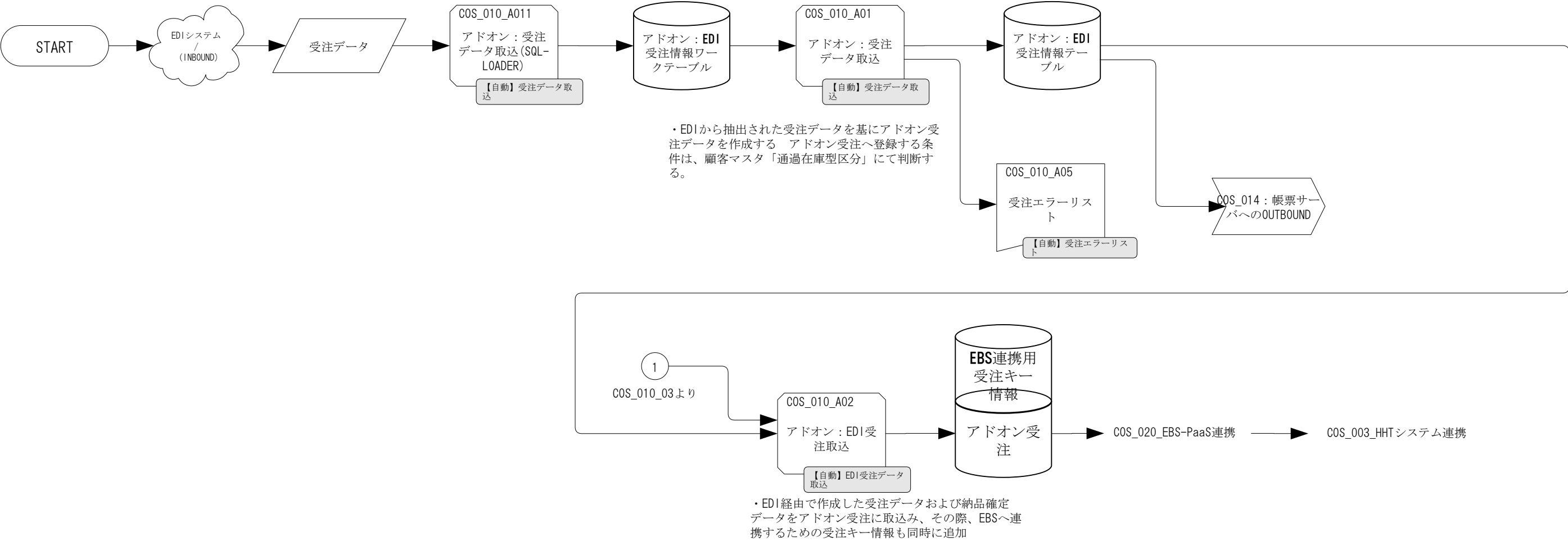
システム管理者（自動起動）

処理タイミング、その他

受注データ取込処理は、EDIシステムからファイルが送信される都度、実行する（リアルタイム連携が必要）

システムプロセスフロー記入時の注意事項

- 機能単位（標準機能含む）で記入すること
- INPUT、OUTPUTともにメインテーブルは必ず記入すること
- I/F機能の場合、相手先システムを記入すること
- 左上の枠内に処理概要、システム利用者、処理タイミング等を記入すること
- 1ファイル、1システムプロセスフローとすること
- フローが複数シートになる場合、（→① / ①→）のように番号でフローの繋がりを明確にすること
- 1システムプロセスフローはSTARTで始まり、ENDで終わること



凡例:



処理概要

EDIシステムからファイル送信される納品確定データをPaaS環境に取込む

②納品確定データの取込

- ・納品確定データ取込処理により、EDI情報テーブルに取込む  
上記処理にてエラーとなる場合、伝票単位で取込まない。  
但し、商品コードエラーの場合は、ダミー品目にて取込む
- ・EDI受注取込処理により、アドオン受注テーブルに取込む

システム利用者

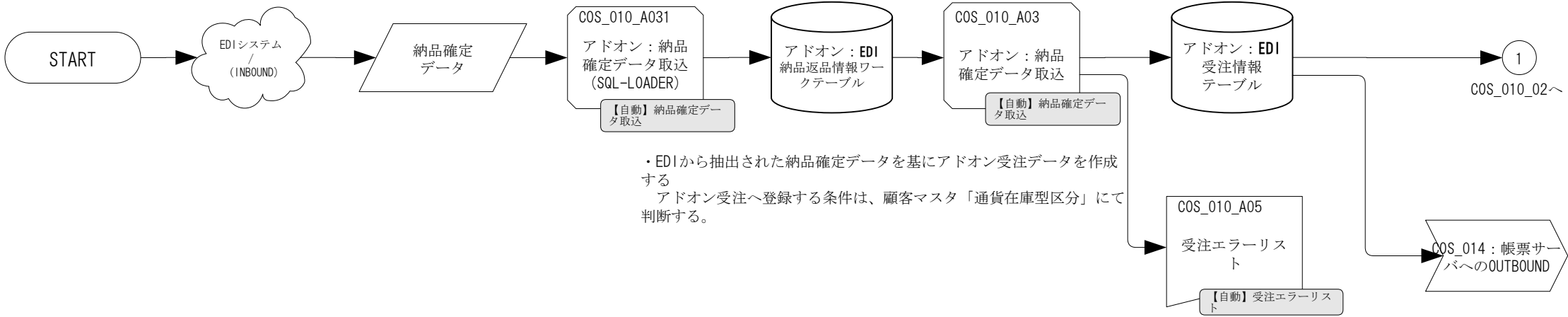
システム管理者（自動起動）

処理タイミング、その他

納品確定データ取込処理は、EDIシステムからファイルが送信される都度、実行する（リアルタイム連携が必要）

システムプロセスフロー記入時の注意事項

- ・機能単位（標準機能含む）で記入すること
- ・INPUT、OUTPUTともにメインテーブルは必ず記入すること
- ・I/F機能の場合、相手先システムを記入すること
- ・左上の枠内に処理概要、システム利用者、処理タイミング等を記入すること
- ・1ファイル、1システムプロセスフローとすること
- ・フローが複数シートになる場合、（→① / ①→）のように番号でフローの繋がりを明確にすること
- ・1システムプロセスフローはSTARTで始まり、ENDで終わること



・EDIから抽出された納品確定データを基にアドオン受注データを作成する  
アドオン受注へ登録する条件は、顧客マスタ「通貨在庫型区分」にて判断する。

凡例:

